

コロナ禍での若手研究者の今と未来：院生・PD・若手教員の諸問題と解決策を語り合う

私たちの研究環境はコロナ禍で大きく様変わりしました。研究資料へのアクセスの制限や、様々な研究者との意見交換の場の減少、生活や仕事・職場環境の度重なる変化への対応の連続といった状況下、多くの研究者は苦労を重ねています。とりわけ若手研究者はまだ研究や諸業務のノウハウを十分身につけていないため、より困難を感じているのではないのでしょうか。また、こうした境遇の若手に対し、指導者ないし先輩としてのアドバイスをいかにすべきかと悩む研究者も少なくないはずです。今回の若手交流会を、そうした問題を参加者が自由に語り合うことで経済史分野の若手研究者の現状を共有し、今後目指すべき方向性を探る機会にしたいと思います。

言うまでもなく、何ごとも「若手」時代の苦労は将来の成長につながる糧になると、積極的に捉える姿勢は大切です。しかしながら、現在のコロナ禍における若手研究者の困難は、長期的な研究の進展を妨げかねず、決して楽観視できるものではありません。自らの研究方針が確立するまでには研究者・仲間との情報交換は大きな意義を持ちますが、今は中々その機会が得られなかったり、史資料にアクセスしようにも所蔵機関の許可が出ないために研究計画の立案や研究費の応募すら難しかったりと、悩みが多いことでしょう。また若手は安定した生活基盤を模索中ですから、日々の生活のためやキャリアアップのためにアルバイトや非常勤講師を務める必要がありますが、それらも難しく、生活や研究に支障が出る事態も聞かれています。また専任教員への応募のあり方も変化し、特にオンラインの面接・模擬授業などに戸惑う場面も生じていますし、幸いにして専任の研究者の職に就けた場合も、リモートワークが広がる中、慣れない職場環境下で一人での対処を迫られるなど、新たな悩みが生まれています。

このように、現在の若手研究者を取り巻く研究環境は厳しく、さらに研究以外の負担も重くのしかかる状況が続けば、研究に身を入れることが困難になり、ひいては個人の問題を超え、学会の長期的な衰退にもつながりかねません。そこで今回の若手交流会は、コロナ禍における若手の研究基盤づくりを模索すべく座談会形式とし、普段なかなか得ることのできない研究者同士の気軽な語り合いの機会を持ちたいと思います。以下の要領でオンライン会議を開催し、下記小テーマごとにブレイクアウトルームを設定しますので、参加者同士で自由に懇談し、情報交換や問題の共有やその解決の模索をいたしましょう。

日時：10月22日（金）18時00分～20時00分

場所：オンライン（Zoom）

テーマ：〔第1分科会〕 非常時の資料調査と研究計画 ～過去および現在の経験の共有～

司会：松坂雅子（愛知大学）、 話題提供：齋藤邦明（和光大学）、 齋藤豪大（久留米大学）

〔第2分科会〕 研究・教育のオンライン化 ～授業・研究会・教員応募・留学等をめぐって～

司会：大塩量平（立命館大学）、 話題提供：高見純（拓殖大学）

〔第3分科会〕 若手教員の学内業務と研究の両立 ～経験の共有と将来像の模索～

司会：見浪知信（桃山学院大学）、 話題提供：細谷亨（立命館大学）

※分科会テーマごとに Zoom のブレイクアウトルームを設定します。司会と話題提供者を中心に参加者同士で自由に懇談しつつ、交流も深めていただけます。途中参加・途中退出も可能です。

参加登録：専用フォームから登録ください。当日の Zoom アドレスを後日お知らせします。

※問い合わせ先：大塩量平（立命館大学経済学部） r-oshio（アットマーク）fc.ritsumei.ac.jp